大幽西ノ沢～丸山岳～東ノ沢下降

斎藤　憲一

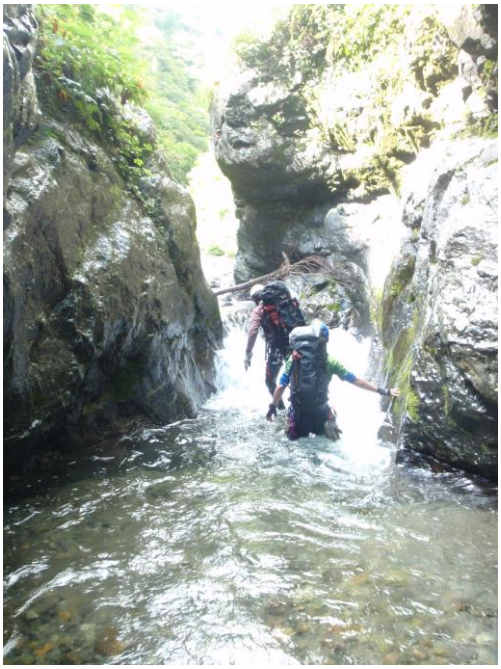
■山行年月日:2021 年
9 月 23 日～25 日
■メンバー:斎藤憲一、齋藤宇
石川貴大
■コースタイム:
23 日　林道終点 8:00～大幽沢 8:20～取水ダム8:50～東ノ沢分岐9:45～黒河原沢11:50～大幽朝日沢13:00～テン場 15:00
24 日　テン場 7:10～丸山朝日沢 13:45～テン場 18:00
25 日　テン場 7:00～丸山岳 7:45～ヨシノ沢源頭 10:00～東ノ沢 11:50～窪ノ沢 13:00～西ノ沢 15:20～取水ダム 16:00～黒谷川 16:30～林道終点 17:00

自身３度目の同じ計画である。過去２回はいずれも、雨のために釣り山行に計画変更となってしまい、結果として中退していた（それはそれで、楽しかったのだが）。しかしながら、何度も釣りばかりに浸ってはいられない。今回は何とか、計画通りの目的達成と行きたいものであり、同行者は前回パートナーのヒロシ君と、訳ありでようやく丸山岳への山行ができるようになった石川君という若者二人で、高齢者となった私には大変心強い。

丸山岳のピークへはいくつかのルートがあるが、自分の中での丸山岳山頂へは、この山域では困難と言われる大幽西ノ沢を遡行して、池塘が点在する山上草原へ立ち、東ノ沢を下降するという周回ルートへのこだわりである。

23 日（木）

林道補修の進行具合は一昨年とあまり変わりはないようで、車は小幽沢橋少し先の昨年駐車した広場からもう少し進んだ、3 台の先行車がある林道の空きスペースに駐車する。ここから河原の中に作られた仮道路を歩いて、一旦元来の高さの林道まで上り、更に少し先の道路が大きく崩れている地点から本流に下って河原を歩いて行くと、間もなく青い橋が架かる大幽沢出合である。取水ダムまでは沢通しを問題なく進んで行き、更にのんびりではあるが、東ノ沢出合まで進



屏風沢付近のゴルジュ突破

大幽朝日沢出合

今山行唯一の懸垂

んで小休止とする。

西ノ沢に入ってもしばらくは変化のない流れであるが、左岸からのミチギ岩沢が出合う辺りから小規模ながらゴルジュや釜が現れ始める。寒くはないので釜や淵などは腰程度の水に浸かって進んでいくが、屏風岩沢出合先の大釜は、前回よりかなり土砂で埋まっているようだ。ここを越えると自分にとっては未知なる領域に入る。大幽朝日沢まで一ヶ所右岸を高巻くが、三者三様のルートを取ってしまって二人の心配をするが、何とか皆無事に登り切って集合でき、残置スリングのあるブッシュで 15m程懸垂する。初日は最低大幽朝日沢まではと思っていたが、考えていたよりも早い時間に到達できたし、テン場適地も確認できないことから更に先へと進んで、Co990付近に見つけた河原を、若干の土木工事をしてテン場とする。

テントを張り、流木を集めてから、今山行の楽しみの一つでもある魚を求めようと、テン場すぐ上の淵で糸を垂らすと、3人とも2匹ずつの晩のおかずを確保できた。いくらでも釣れそうではあるが、必要分だけあれば良いのですぐに戻り、分業制で夕食の準備をしていると、夕暮れ頃から小雨が降り出してきたので、さっさと夕食を済ませてテントへ入る。雨は夜中も降ったり止んだりしていて、河原のテン場では増水が心配で途中何度か目覚めたが、幸い大降りはせずに増水もなかった。

24日（金）

朝には雨があがっていたので、外に出てモーニングコーヒーを飲み、昨晩ヒロシが刺身に処理した残りである岩魚のアラの出汁が効いた美味いうどんを食べて出発する。今日の目標は丸山岳の山頂だ。

途中小雨が落ちてきたりもしたが、幸い降り続くことはなかった。そんな時、雨具を着たヒロシの後ろ姿を見て、なんとなく『かっこいいな！』とつぶやくと、石川曰く『黒の雨具に赤いザックで、全体が締まって見えるんですよ！』だそう

丸山朝日沢出合

である。今日も全体的なゴルジュの中に小滝や釜が続く。そして、魚止と思われる滝の手前の淵には、〇〇㎝オーバーの岩魚が悠々と泳いでいることに、3 人揃って驚きを隠せない。何というあるがままの自然豊かな沢であることだろうか。それでも今日は、ザックから決して竿を出さずに登ることを誓っているので、遡行に専念して黙々と先を急ぐ。しかしながら、引き続き徒渉や滝の小巻きなどが次々と現れて、スマホで現在地を確認しながらも、思うように距離を稼げていないのが気に掛かる。

雪渓の残る丸山朝日沢出合は 14 時近くになってしまい、思いのほか時間が掛かってしまった、もう少し急がねば・・・。しかしながら、ここからは更に小滝が連続するようになり、気は焦るが思うように進めない。それでも次第に水量が少なくなってきて、源頭の様相になってくる。ようやく草原地帯に入ったようではあるのだが、山頂まではもう少し先がありそうである。すでに時間は 18 時になり、間もなく暗くなる。そして標高を上げたせいもあるだろうが、かなり寒くなってきたために、早く身体を暖めたいということで、タイミング良く見つけた、ちょうどテント一張り分のうってつけの草地を一夜の宿と決める。この場所は当初目標の山頂ではなく、少し傾斜のあるテン場ではあるが、この状況では良好物件とするしかないであろう。

早速テントに入ってガスを焚けばたちまち暖かくなり、ホッとすると同時に、こんな事でもここが天国になるということは、山ヤならわかりますよネ～。夕食を済ませて外へ出てみると、夜空には僅かながらも星の輝きも望めるようになってきた。明日朝の晴天を願いながら早々にシュラフに入る。

25 日（土）

炊事をするにもすごく便利であった、小さな流れすぐ脇の草地のテン場を出発して、草地や緩傾斜のスラブなどを進んで行って、山頂までの時間は 45 分程であった。頭上には幸いにも青空が広がっている。山頂からは、村杉半島から浅草岳や越後三山などが雲海から頭を出しているのが望め、360 度どこまでも続く山並みに感動しながら、草原と池塘そして山また山の景観を十分に楽しむ。また、周辺の最も高くなっている笹藪の中に、隠れるように設置された三角点も確認することができた。

山頂での時間を十分に満喫してからの、次に気になるのは『何とか明るいうちに下らなければ』ということで、頭を東ノ沢への下山に切り替えて、山頂からしばらくは良く踏まれた道をルンルンで進んで行くが、途中からその道も笹藪の中に消えて行く。背丈を遙かに超す程の猛烈な笹藪を、尾根上を外さないよう

に注意しながら、最低鞍部を目指して進んで行くが、なかなか先が見えずに、途中で諦めてヨシノ沢西俣を鞍部下に望める草地へと下る。そんなこんなで山頂から東ノ沢 Co1046（南俣出合）までに４時間も掛かってしまった。地形図上ではここからの東ノ沢はメチャメチャ長い。困難はないとはいえ、いったいどの位の時間が掛かるのだろうか？と不安を覚える。

　それでも唯一の困難は、窪ノ沢出合のゴルジュ帯であるが、流木を使ったり水にどっぷりと浸かったりしながらも、ロープを出すこともなく通過できた。ここを過ぎると本当に困難はなく、足早に下って来たお陰もあって、西ノ沢出合には 15 時過ぎに到着して、明るいうちに車に戻れる見込みが立ったことで安堵する。先行していたヒロシと二人で休憩しながら、途中から遅れ気味になっていた石川を待つが、なんと『股擦れになってしまった』とぼやきながら、ゆっくりと歩を進めてきた。十分休憩して、取水ダムの河原まで来ると、3 パーティーが楽しそうにキャンプしているし、ここまでの途中でも数人の釣り屋に出会っていた。この連休には、天候が良ければかなりの釣り屋が入るようであり、黒谷川までにも 1 パーティー、更に林道脇の広場には 5～6 人のパーティーがキャンプをしていた。

暗くなる前の 17 時に車に到着し、ようやく完遂できた目標達成と、この 3 日間に同行してくれた二人の若いパートナーに感謝して固い握手を交わす。

ゴルジュの中に次々現れる滝